

HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No42

東大阪中央ロータリークラブ

創 立 昭和47年2月20日
例 会 日 毎週月曜日 12:30~
例 会 場 所 シェラトン都ホテル大阪
事 務 所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号
TEL. 06 (6772) 2320
FAX. 06 (6772) 2327
E-mail:hcrc@at.wakwak.com



会 長 浅 野 光 男
会長エレクト 岩 崎 史 郎
副 会 長 鈴 木 勝 俊
幹 事 小 川 高 弘
会報委員長 大 石 忠 克

Reach within to Embrace Humanity こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011~2012年度 国際ロータリー会長 カルヤン・バネルジー

第 1855 回例会 平成 24 年 6 月 18 日 (月曜日) 第 42 号

本日の例会

6月18日(月)第3例会

- ◎ソング 「限りなき道ロータリー」
- ◎卓 話 「会長年度末挨拶」
浅野光男会長
- ◎本日の献立 プッフェ
- ◎6月25日(月)定款による特別休会

次回の例会

7月2日(月)第1例会

- ◎「会長挨拶並びに新年度方針説明」
会 長 岩崎 史郎
会長ノミニー 鈴木 勝俊
副会長(クラブ奉仕委員長) 細川 勝治
) 幹 事 岡田 忠彦
- ◎本日の献立 寿司盛り合わせ

前回の記録

6月11日(月)第2例会

- ◎ビジター 大阪東RC 佐々木恭一氏

会 長 挨 拶

会 長 浅野光男

今週6月15日~16日に、約二年間をかけた計画をして参りました我クラブとして独自の東日本大震災支援事業計画に則る支援活動実施に向け、再度仙台亘理地区漁業組合に岩崎次年度会長、小川幹事、岩橋会員、松岡会員と私5名で行って参ります。支援活動資金は会員の皆様方からお預かり致しております大切な資金であります。再度の現地訪問により更なる詳細を確認し報告致したいと存じます。

震災発生より既に1年3ヵ月、今だに毎日のようにテレビ等で被災地の復興の遅れを報道されております事はよくご存じの通りであります。直接現地を確認して戴ければ更に、実感が大きくなり衝撃を受けられるのではないかと

思います。眼前の海に漁に出れさえすれば今直ぐにでも地域の生活が復活可能な状態にありながら津波により網が流され、再興の為今直ぐにでも必要な定置網製作の資金不足により満足な漁が出来ていない状態です。完全な定置網製作には多額の資金が必要と成りますが、現地の方々の苦しい中の自己資金、世界飢餓対策機構による支援物資、そして我クラブよりの支援金を合わせ少しでも早い時期に漁が再開できるまで支援を続けて行かなければならないと考えております。

幹 事 報 告

幹 事 小川高弘

1. 今年度、各委員長には活動報告書の提出をお願い致します。
2. 本日例会終了後、第2回事前理事会を5Fパンジーの間で開催致しますので、新年度理事、役員各位には宜しくお願い致します。
3. 次週6月18日は本年度最終例会となります。全員参加でお願い致します。
4. 他クラブ例会変更及び休会の案内を掲示しています。

次年度幹事報告

次年度幹事 岡田忠彦

1. クールビズに関しまして、ジャケット着用とお知らせ致しましたが、任意で結構ですので宜しくお願い致します。

出 席 報 告

岩橋委員

本日の会員数	36名
本日の出席者数	22名
本日の出席規定適用免除会員	11名
本日の出席率	73.33%
5月28日の修正出席率	96.97%

浅野会長 今期1年ご協力有難うございました。
佐井会員 写真有難うございました。

卓話

「世界遺産めざす百舌鳥・古市古墳群と大山古墳(仁徳陵)」
日本ペンクラブ会員 中井正弘様(大阪春秋編集委員)

ご存知のとおり京都・奈良・兵庫・和歌山にはそれぞれ世界遺産があります。しかし、大阪にはまだありません。現在、大阪府と堺市・羽曳野市、藤井寺市は両古墳群の登録めざしています。なかでも大山古墳(仁徳陵)・誉田山古墳(心神陵)に注目が集まりますが、十分な調査や研究が進んでいるとはいえません。

堺市博物館には、かつて前方部と後円部のいずれも大きな石棺が2基も展示してあり、驚く人がいました。宮内庁が厳重ともいえる管理をし、墳丘へ入ることさえできない、もちろん発掘調査もされていないからです。じつは、主体部の後円側の大石棺は江戸時代初期までに盗掘に遭い、一部のデータが記録されていたこと、前方部は、明治5年の聖域化の清掃工事に関係して見つかった際の絵図をベースにして、復元したものです。意外にも主体部の埋葬施設の盗掘は、あの大坂城を築いた秀吉によった可能性があることを堺に残された資料から読み取ることができます。

ところが、被葬者はいったい誰なのかということが、戦後ずっと専門家の中でも議論されてきましたが、これがなかなか難しい。今、注目されている視点は、被葬者の問題と併せて、なぜあのような巨大な古墳を造ったかということ。これを当時の国際情勢、もう少し厳密に言えば、中国を中心とした東アジア情勢から見てみようということです。

巨大古墳が築かれた5世紀は、日本・当時の倭国は史上2番目に国際化を迎えた時代です。一番目は魏に使いを送り、親魏倭王の国印や100枚の銅鏡をおみやげにもらった卑弥呼の時代です。その後、対外交渉が絶え、約1世紀半後、再び倭の王たちが東アジア情勢に積極的に対応しようとするのです。この5世紀も国内の大規模な開発と同時に戦いに明け暮れていた時代です。この時代の古墳からは膨大な量の鉄製の武器・武具や農工具が出土します。それ以前の時代に比べて強力ですぐれたものです。その鉄原料の多くを朝鮮半島南部から入手しています。朝鮮半島では北で高句麗、西で百済、東で新羅が強力になり、任那と呼ばれている南部の情勢が不安定になってきました。東アジアの中心国であった中国は南北に分かれ、漢民族は南に宋王朝をうちたてていました。その宋へ周辺国が朝貢外交を展開し、中国の官位など、冊封をうけ、今日的に言えば安全保障体制と国際的立場を確立していたのです。例えば、シルクロードの西域の国々の君主たちは車騎大將軍・征西將軍・安西大將軍・鎮軍大將軍などの称号を、高句麗は「使持節・郡督・營州諸軍事・征東大將軍・高句麗王・樂浪公」、百済は「使持節・郡督・百済諸軍事・鎮東大將軍・百濟王」という長ったらしい官位と称号を得ています。しかし、随

分遅れて倭王・讃が421年にやっと宋に使節を送り、その後も珍・濟・興・武と5代にわたって朝貢外交を繰り広げます。ところがなかなか思うような官位が得られません。初めは単に安東將軍・倭国王そして濟のときにやっと「使持節・郡督・倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓・六国諸軍事・安東大將軍・倭国王」という官位が得られます。それでも周辺諸国の王の官位からすれば抜きん出たものではなかったのです。それでは対外的にもなりゆかないと考え、武の時代には有名な上表文を提出して、いかに宋皇帝のために粉骨砕身しているかということと、周辺諸国の官位より一段高い官位をもとめます。結果は芳しくありませんでした。そのためだったのでしょうか。朝貢をやめ、その後、約100年間、対外交渉はなく、聖徳太子が隋へ遣隋使を送るまで途切れます。宋の次の梁王朝のときに強かれた『職貢図』の中に各国の使節の姿が描かれていますが、倭国使が一番みずばらしいのです。

おくれて国際社会に仲間入りをし、同時に国内の統一を図ろうとした倭王たちは、その実力すなわち組織力・経済力・技術力を外と内に向けて示そうと大きな古墳をさらに大きく、巨大古墳づくりに熱を上げたのではないのでしょうか。5世紀当時、東アジア世界では、中国はもとより周辺諸国でもこのような巨大な墓や単なる墓でなく記念モニュメントとしてでも築造していない。使節がやって来であろう大阪湾の海上からその巨大な姿がよく見えるように海岸線に平行して台地上に築いたと考えられます。

さて、その巨大古墳に誰が葬られたのか、先の倭の五王の一人に違いないが、諸説に分かれるところです。私は、最初に安東大將軍の官位をうけた濟がもっとも可能性が高いと考えています。「仁徳陵」いや大山古墳の築造時期とも一致するのです。

2012～2013年度第2回事前理事会議事録

日時 2012年6月11日(月)例会終了後
場所 シェラトン都ホテル大阪5階 パンジーの間
出席理事 岩崎史郎 鈴木勝俊 細川勝治(欠)
岡田忠彦(欠) 大石忠克 藤原英夫(欠)
百済洋一 松岡 武 小川高弘 佐井義昌
岡本慎一 和田吉成 計9名

決議事項

- 積立金の件 特別準備積立金 40,000円
(上期20,000円 下期20,000円) 承認
- 予算の件(別紙予算案) 継続審議
- プログラムの件(別紙 プログラム案) 継続審議
- 東大阪西RCとの合同例会の件
11月26日(月)ホスト東大阪西ロータリークラブ
4月15日(月)ホスト東大阪中央ロータリークラブ
承認
- 軽食を6回→12回に変更の件 6回で承認
- 鹿港RC30周年記念式典(10月20日) 継続審議